

イメージプリテーションセッションに関する訂正とお詫び

症例 2 について

右膀胱上窩ヘルニアではなく、鼠径ヘルニアの偽還納が正しいのではないかと問い合わせがありました。

質問のあった下腹壁動静脈とヘルニアとの位置関係について、ヘルニア門が動静脈の外側に位置しており膀胱上窩にはありませんでした。外科医にも術中所見を再確認した結果、外鼠径ヘルニア偽還納がより正しいと判断し訂正させていただきます。

絞扼腸管のヘルニア本体は下腹壁動静脈の内側に位置していましたが、ヘルニア門が外側に確認されたため、当初の診断の前提が崩れてしまいました。術者である外科医と再度検討したところ、もう一つの診断根拠であった「ヘルニア門が通常と異なる内側（膀胱直上）にあった」という術中所見についても、実際には下腹壁動静脈より内側であったかどうかの確認が不十分で、判断が曖昧であったことが判明しました。

さらに、手術直前に鼠径ヘルニアの徒手整復を試みていた点も踏まえ、最終的に外科医と協議のうえ、本症例は整復手技後に偽還納を生じたものと結論づけました。

なお、本件に関連して採点に不備がありましたこととお詫び申し上げます。なお、再採点を行った結果、表彰対象者にも変更が生じております。該当される皆様にはご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。また、新たに表彰対象となられた方には、表彰状を郵送にてお送りさせていただきます。今後はより適切な評価が行えるよう努めてまいります。

詳細につきましては来年 3 月の学会で訂正スライドを用いて説明させていただきたいと考えております。